

新作コンペ・エントリーNo.1

『やっぱり うっかり オオカミくん』（仮称）
大野 義徳（人形劇団紙風船）

『やっぱりうっかりオオカミくん』（仮称）

大野義徳
（人形劇団紙風船）

・概要：

「森のオオカミが主人公のドタバタ人形劇」

森のオオカミくんが、獲物を捕まえようと奮闘。でもそこは、どこかで聞いたような童話の世界。童話ではやっつけられたり失敗してしまう役回りなのだけれど、そのストーリーを知ってるオオカミくん、裏をかいてやろうと画策する。しかし獲物の方が一枚上手で結局、獲物を捕まえ損ないすごすご退散する羽目に。

・出典：オリジナル（昔話からアレンジ）

・あらすじ

見た目怖そうで、頭も良くしっかりしている感じ（実はちょっとお間抜け）のオオカミくん、獲物を捕まえようと頑張るんだけど、もう一息のところまで逃してしまう。いつも相手の方が一枚上手。それでも何度も挑戦し続ける。最後にはおじいさんオオカミになっちゃうけど、それでもめげずに前を向く。

（以下、オオカミくんが遭遇する場面）

・カメとウサギのレース(ここではオオカミくんがウサギ役)

見た目怖いけどちょっと間抜けなオオカミくん、森でカメに出会い、捕まえて食べてしまおうとする。しかし、レースに勝ったら食べてもいいというカメの話にうっかりのってしまい、勝てるに決まっていると思い走り出すけど、どこかで聞いたような話だと思い直す。途中で居眠りしてはいけないと、カメのもとに大急ぎで戻るが、カメはレースなんかしないでとっとと逃げてしまっていた。怒りをぶつける相手もおらず、すごすご退散。

・三匹の子豚(登場は一匹)

わらの家にいる子豚を見つけたオオカミくん、息を吹きかけ子豚の家を吹き飛ばすも、子豚は隣のしっかりした家に逃げ込む。童話を思い出したオオカミくんは、息だけでは家は壊れないと考え、大きなハンマーを持ち出す。そして思いっきりハンマーを振り下ろすも、跳ね返されてしまう。なんとその家は鋼鉄で出来ていた! 手も身体もビリビリしびれてしまったオオカミくん、すごすごと退散。

・赤ずきんちゃん

森で赤ずきんちゃんを見かけるオオカミくん。病気のおばあさんのお見舞いという話を聞き、おばあさんを食べてしまうだけでなく、赤ずきんちゃんも食べて、童話のようにならないように逃げてしまえ、と画策。しかし森のおばあさんの家に行ってみると、おばあさんは病気ではなかったばかりか、もの凄いマッチョで、コテンパンにやられてしまい、すごすご退散。

・桃太郎(ここではオオカミくんが犬役)

鬼退治に行く桃太郎と出会うオオカミくん。物語の結果を知っているオオカミくん、財宝を独り占めしてやろうと野心を燃やし、自分を売り込み、加わることにした(お供はこの一匹)。勇んで鬼ヶ島に乗り込むが、肝心の桃太郎が急な腹痛で、鬼退治をオオカミくんに一任。アテの外れたオオカミくん、やっぱりコテンパンにやられてしまい、財宝もとれずにすごすご退散。

・浦島太郎(ここではオオカミくんが太郎役)

はじめに出会ったカメに再び遭遇。「このやろう」と捕まえて食べてしまおうとするが、カメはオオカミくんを竜宮城に案内し、美食の限りでもてなす。すっかりいい気分のオオカミくん、カメのことは許し、帰りにお土産を2箱もらう。それは、玉手箱と、財宝箱。玉手箱の方は絶対に開けてはいけないと知っているオオカミくん、財宝箱を開ける前に、緊張したのか二つの箱を地面に置き、いったん用を足しに離れる。そこに赤ずきんちゃん(子豚でもいいかも)が来て、きれいな箱を持ち帰ろうとするが、いけないことと思い直して地面に置き直す。ただ左右の順序を逆に置いてしまう。

帰ってきたオオカミくん、順序が逆なのに気づかず、財宝箱を開けるつもりが、間違えて玉手箱を開けてしまう! 煙が出てあっという間に真っ白なおじいさんオオカミに。すごくがっかりするものの、真っ白もちよっとカッコいいかも、次こそ頑張るぞ! とか言い残して退散。

・主たる登場人物(動物)

オオカミくん、カメ、子ぶた、赤ずきんちゃん、おばあさん、桃太郎、鬼

・どのような作品に仕上げたいかなどの希望、思い

子供が楽しめる人形劇。昔話を知っているならもちろん、知らなくてもデフォルメされたドタバタや間の取り方で笑わせたい。たとえば玉手箱を間違えて開けてしまう時に、子供たちから「そっちじゃないー!」とか掛け声をもらえると最高。オオカミくんのちよっと間抜けな感じは、絵本「ぶたのたね」の主人公オオカミのイメージ。でも、やられてばかりのオオカミくんだけ、最後まで前を向いていくカッコよさも伝えたい。

(似たようなストーリーの人形劇が過去に無かったか、そこが気になります。)